

◎ 最終評価のまとめ

☆ 自己評価

(1) 分掌ごとの取組 (別紙1 参照)

- ① 「魅力ある授業の展開と学力の向上をめざす。」取組
授業改善委員会、教務課、学年団、学科で取り組んだ。
国立教育政策研究所主管の研究指定校事業において、2回の公開授業研究会を実施するなどの取組を行った。この取組を核として授業改善が大きく進んだ。
学び直しの科目、朝の基礎学力の時間の導入に取り組んだ。
資格取得の指導・支援においても、まずまず目標を達成できた。(別紙4 参照)
課題としては、産業工学科1年生における授業規律の指導が十分徹底できなかったことがあげられる。
- ② 「規範意識の定着を図ると共に、心豊かな人づくりをめざす。」取組
生徒課、学年、学科、厚生課、ボランティア係で取り組んだ。
専門科における規律指導、学校行事の満足度を高める指導においては十分な成果を納めることができた。特別指導の件数を昨年度と比較して大幅に減らすことができた。
発達障害支援実践モデル校事業において、安心して参加できる授業の工夫、中学校との連携の強化に取り組み公開授業研究会及び高校・中学校・地域の関係機関合同の研修会の実施など大きな成果を挙げることができた。
ボランティア活動において、機会を増やすことができ、熱心な生徒はいい取組をしてきている。その一方で、参加者数が思うように伸びず、どうやって底辺を拡大していくかが課題である。
- ③ 「キャリア教育の一層の充実により進路実現をめざす。」取組
進路指導課、地域連携プロジェクトチーム、学科、学年団で取り組んだ。地域人材育成事業において、町のスイーツ開発への協力など地域連携の様々な取組を行い、生徒のキャリア意識の向上を図ることができた。
就職内定率は2月末現在で94.6%となった。100%を目指して指導中である。生徒の進路決定満足度は目標を達成できた。
- ④ 「様々な連携活動を推進し、教育力の向上を図る。」取組
地域連携プロジェクトチーム、学科、生徒課教育相談係で取り組んだ。特選品を使った商品開発(桃ピューレ、栗大福)などで大きな進展があった。小学生との交流も継続して行い、高校生、小学生ともに成長の機会となっている。

(2) アンケート結果 (別紙2、別紙3 参照)

- ① 今年度は、生徒、保護者、教職員に同じ内容の質問を20用意し、三者の認識の比較ができるようにした。また、保護者は、昨年度までPTA役員のみを対象としていたものを、全員を対象とした。

- ② 3か年を比較すると、生徒の場合、「5 家庭学習時間の確保」、「13 ボランティア活動への参加」の評価が極めて低くなっている。この2項目は、3者とも評価は高くない。
- ③ 三者の評価を比較してみると、「2 学校は落ち着いて授業が受けられる環境である。」において、教員の評価が極めて低い。生徒の評価も高いとは言えず、授業規律の徹底が必要であると思われる。
また、「4 わかりやすい授業が多い。」においては、教員の評価に比べ、生徒は約半分程度しか肯定的な回答をしていない。授業改善の成果が生徒にまで十分伝わっているとは言いにくい。
また、「9 勝高三訓」「10 社会のルールやマナー」が守れているか、という項目については、生徒、保護者の評価が高いのに比べ、教員の評価は非常に厳しくなっている。この認識の差を埋めることが必要であると考えられる。
- ④ 1年生アンケートは、学校の広報活動、魅力づくりの参考にするために実施している。ほぼ狙いどおりの結果になっているが、「合格しやすいから」という理由で本校を選んでいる生徒が、半数近くいることは、今後の課題である。

☆ 学校関係者評価

(1) 評価委員

山砥 健（勝英農業普及センター総括副参事）
古山 葉富（勝央町役場産業建設部総括参事）
山根 文恵（勝央町教育委員会委員）
木村 泰二（勝間田高等学校校友会参与）
水島 強（勝間田高等学校 PTA 会長）

(2) 学校関係者評価委員会の実施

第1回 平成25年7月2日（火） 学校経営計画について
第2回 平成25年11月18日（月） 授業参観・中間評価について
第3回 平成26年3月7日（金） 最終評価について

(3) 評価結果のまとめ

⑤ 評価すべき点

- ・ 小学生との交流事業は小学生にとっても大切な事業になっている。
- ・ 部活動をしている生徒が、いい挨拶をしてくれる。
- ・ バイオの授業など素晴らしい授業が多くあった。
- ・ 勝央スイーツの取組は、行政と学校の連携が取れておりいい取組であった。
- ・ 自主的に困っている人の手助けができる生徒がいて、地域で喜ばれている。

⑥ 課題・提言など

- ・ 勝央工業団地で本校の卒業生の離職率が高いという声がある。就職後の支援体制を充実させる必要がある。企業やホテルなどと連携し、職業観の育成に取り組んでみてはどうか。
- ・ 勝央町と勝間田高校の連携ができてよかった。来年度も協力をお願いした

い。

- ・ 卒業生の中には、農業自営者など優秀な取組をしている方が多数おられる。指導や講話を活用されるとよい。
- ・ 高校生に身だしなみなどの意識を持たせるには、社会人としての自覚を持たせなければならない。そのための仕掛けが必要である。
- ・ 勝間田小学校に比べて、勝央北小学校との交流が少ない。森林体験など勝央北小とも実施してはどうか。

☆ 学校評価から考えられる、来年度に向けての主な課題

- (1) 授業規律の徹底をはかること。
- (2) 地域貢献、ボランティアの取組に対する生徒全体の意識を高め、参加者の実数を伸ばすこと。
- (3) 授業改善をさらに進め、生徒に授業が分かるという達成感と自信を持たせること。